



九州大学EUセンター(ジャン・モネCoE九州)市民講座2024

環境問題とEUの挑戦

～SDGsの推進へ向けて 全4回



第1回：6月21日(金) 「欧州におけるエシカル消費の取り組み〜クレアレポートより」 蓮見 二郎 (九州大学EUセンター長)

慶應義塾大学法学部政治学科卒業、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻後期博士課程単位取得中退、ケンブリッジ大学大学院教育学研究科PhD。九州大学大学院法学研究院准教授を経て、現在は同教授。2022年12月より九州大学EUセンター長。専門は現代政治理論、市民教育論。共著に『政治リテラシーを考える——市民教育の政治思想』（関口正司編・2019年・風行社）

「エシカル消費」とは、環境などに配慮した倫理的・道徳的な消費行動を指します。ここでの「環境」には、動物や自然環境はもちろん、労働者や人々の人権や社会のあり方なども含みます。第1回の本講座では、エシカル消費について広く欧州でどのような取組が行われているのかについて、SDGsに関連させながらご紹介します。



第2回：6月28日(金) 「REPowerEUが目指すEUエネルギー・気候変動政策」 市川 顕 (東洋大学 国際学部 教授)

東洋大学国際学部グローバル・イノベーション学科教授。同大学グローバルイノベーション学研究センター副センター長、政策情報学会会長、政治社会学会副理事長。ポーランドを中心とした中・東欧諸国の政治およびEU環境・エネルギー・気候変動政治および政策を専門とする。

今回の講演では、EUのエネルギー政策の特徴を提示し、各国の利益と思惑の相違について論じます。そのなかで、エネルギーの脱ロシア化について、EUの対応と今後のEUエネルギー政策の方向性を探ります。



第3回：7月19日(金) 「EUの環境政策とグローバル・スタンダード」 渡邊 智明 (福岡工業大学 社会環境学部 教授)

福岡工業大学社会環境学部教授。九州大学大学院法学府博士後期課程単位取得退学。博士(法学)。2018年より現職。専門はグローバル・ガバナンス論、環境政策。主要著書『有害廃棄物に関するグローバル・ガバナンスの研究—政策アイデアから見たバーゼル条約とその制度的連関』（国際書院、2022年）。

EUは、現在、気候変動政策などにおいて世界を積極的にリードしています。それらの環境政策は単なる規制にとどまらず、市場を視野に入れて民間の認証・規格を活用するグローバル・スタンダード戦略の側面を有しています。本講義では、EUに見られる環境政策とグローバル・スタンダードの関係について検討します。



第4回：7月26日(金) 「EUの経済産業政策とSDGs」 伊藤 さゆり (株式会社ニッセイ基礎研究所 経済研究部 常務理事)

早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了。日本興業銀行(現・みずほフィナンシャルグループ)を経て、2001年ニッセイ基礎研究所入社。2023年7月から現職。早稲田大学商学大学院非常勤講師(2015年度～)、日本EU学会理事(2017年～)、経済団体連合会21世紀政策研究所研究委員(2017年～)、経済産業省産業構造審議会経済産業政策新機軸部会委員(2023年11月～)など兼務。近著に「米中覇権競争とインド太平洋地経学」(彩流社、2023年、共著)。

6月に5年に1度の欧州議会選挙を終えたEUは新たな政策サイクルに入ろうとしています。コロナ禍からの復興のために立ち上げた復興基金「次世代EU」の制度設計、通商・産業政策を巡る新たな動きなど、EUがSDGsの実現に向けて進めてきた政策を振り返り、これからを考えます。